

幅も通常より多い」と話す。季節だけでなく年ごとに変わる気象条件や、各ハウスではばらつきのある温度、湿度なども加味し、多様な品種を作り分ける。ハウス内の一部の株で交配し、有望な系統があれば種を取り出し、栽培を繰り返す。5年以上かけて固定する。育種の過程で特性を見極めて

三重県志摩市



オリジナル品種の由来を見る川口さん(三重県志摩市)

冬春野菜との二毛作向け

多収の水稲新品種



野菜との二毛作が可能で多収の「歓喜の風」(左)と「キヌヒカリ」(農研機構・九州沖縄農業研究センター提供)

「キヌヒカリ」を交配した。育成地の福岡県筑後市では、6月中旬・下旬の移植で、水稲・野菜の二毛作で普及している「キヌヒカリ」に比べて出穂期は2日遅く、成熟期も5日遅い。10ア当たり精玄米収量は、窒素8kgの標準施肥栽培で「キヌヒカリ」より9%多い10ア559kg、

農研機構・九州沖縄農業研究センターは19日、関東以西で冬春野菜の後作に栽培できる水稲の多収性品種「歓喜の風」を育成したと発表した。「キヌヒカリ」とほぼ同じ稈長(かんちよう)で、冬春野菜後の残肥が多い圃場(ほじよう)でも倒伏しにくい。稲と野菜の二毛作向け品種として普及を見込む。▼一面参照

葉をつぶすと出る匂い利用 高温耐性高める錠剤 神戸大など

神戸大学と肥料メーカーのファイトクロームは19日、作物を高温に強くする錠剤「すずみどり」を3月に発売すると発表した。有効成分は、葉をつぶすと出る匂い(一種)で、ハウス内に漂わせると、作物の高温耐性が高まる。果菜類や葉菜類で使え、8月の盛夏期に花落ち、しおれを防ぐことを確認。地球温暖化で高温障害が問題となっているが、植物が持つ力を高く



ハウス内につり下げた「すずみどり」の錠剤(神戸大学提供)

6年にカブエーMelon house(メロンハウス)「かわぐち」をオープンした。店では最適な状態に追熟した果実を調理する。食べて気に入れば、その場で果実を購入できる。苦労したのはメニュー開発。メロンは水分が多いため、生果を使うスイーツは長く置けない。加熱した

「指名買い」

上が来店する。店を目的に訪れる旅行者も増えた。メロン農家4代目の川口さん。育種は初代から取り組み、品種数は数え切れない。「メロンは食べ頃の判断も難しく、追熟で失敗する人も多い。本当のおいしさを知ってもらいたい」と、オリジナル品種でメロンの消費拡大に取り組む。

成分を2%含む。アルミ包装で包装の両端をはさみで切ってハウス内につるすだけ。100平方ア当たり1、2錠が目安で、およそ1カ月効果が見込める。2017年に試験販売でも花落ち軽減を確認し

バンカーシート 施設ブドウ対策 GA前期が最適

施設栽培するブドウのハダニ防除として、島根県農業技術センターは、野菜で普及が進む天敵保護資材「バンカーシート」の効果を明らかにした。設置時期は、シベリン(GA)の1回目(前期)処理期が最適。設置数も10ア当たり30個で収穫に影響ない程度に、ハダニを抑えた。薬剤防除の



ブドウ「テラウエア」の早期加温栽培で設置した「バンカーシート」(島根県出雲市)は、省力化と薬剤抵抗性の抑制を期待できるという。同県のブドウハウス栽培は、省力化のため収穫後もビニールの周年被覆が多くなり、難防除害虫のハダニ類が周年で定着するようになった。天敵農薬のミヤコカブリダニを導入したが、かん水をスプリンクラーから点滴チューブに変えると、乾燥して天敵の定着が悪く

「バイオステイミュラント」としてPRする。錠剤はファイトクロームが販売。参考小売価格は1袋10錠入りで3700円(税別)。問い合わせは同社、電話03(43316)4920。

が減った。神戸大学農学研究所の山内靖雄助教は「品種や遺伝子組み換えに頼らず、高温に強くなる」と説明。作物の活性を高められる天然成分